

長崎県幼児教育センターだより

No. 21  2025. 11. 25



令和7年度特別支援教育研修会を行いました！

昨年度、会場収容人数の関係で申し込んだすべての方に研修を受講いただけなかったため、今年度も同じ内容で開催した特別支援教育研修会ですが、100名を超える申し込みがあり、先生方の特別支援教育について学びたいという強い思いが伝わってきました。

午前中は、長崎大学子どもの心の医療・教育センター センター長 岩永竜一郎教授を講師としてお招きしました。「配慮が必要な子どもへの関わり方、環境構成、保護者支援について」と題した講義の中で、配慮が必要な子どもの特徴や、発達障害のそれぞれの特徴について、詳しくお話しいただきました。発達が心配な子どもへの支援についても、具体的な事例を基に対応の仕方を教えてくださいました。特に印象深かったのが、療育を受けている子どもの動画視聴です。岩永先生ご自身が関わっておられる子どもへの対応を見せていただきましたが、日を追うごとに子どもが成長している様子が伝わり、適切な対応をすることの大切さを改めて感じました。受講者からは以下のような感想が寄せられました。

- ・その子の発達の状態や、必要な支援をしっかりと見極めながら、二次障害にならないように、対応を考えていきたい
- ・その子自身と向き合い、良いところを見つけて繰り返し褒めて、いいほうに伸びるように援助していきたいと思う
- ・自分の保育を振り返り、発達状況にあった関わりができているのか、こういった支援が必要になるのかを考え直していきたい

午後は、長崎県教育庁特別支援教育課の永間多美子指導主事から、「思いを共有し 思いをつなげる 個別的教育支援計画、個別の指導計画作成のポイント及び効果的な活用について」と題した講義の中で、配慮が必要な子どもや保護者への支援の在り方やよりよい支援をつなぐ書類の作成について話があり、学びを深めました。講義のあと、個別の指導計画を作成する演習を行い、それを基に、作成において難しかったことやそれぞれの園での取り組みや今後取り組みたいことの視点で協議を行いました。活発な協議で、どの班も悩みや取組を共有する姿が見られました。協議後の発表では、講義内容や協議をする中で生まれた疑問について、受講者から発表があり、全体で共有しました。それに対して、講義後の講評で、永間指導主事からの確かな回答をいただきました。今回の学びを自園に持ち帰り、各園で生かしていただけることを願っています。



こどもの睡眠中の事故を防ぐために



11月は乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間となっており、県からもこども家庭庁の事務連絡について周知しています。SIDSだけでなく、こどもの睡眠中の事故を防ぐためのポイントを、園内であらためてご確認ください。

<こども家庭庁事務連絡 URL>

[令和7年度乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間の実施について](#)

中堅研(オンライン)・新採研(オンライン)のご案内

12月17日(水)に、令和7年度中堅保育者資質向上研修オンライン研修、12月18日(木)に、令和7年度幼稚園等新規採用職員オンライン研修(後期)がそれぞれ実施されます。中堅研が11月28日(金)、新採研が12月1日(月)締め切りとなっています。ご多用の中とは存じますが、研修への参加についてご検討いただけると幸いです。なお、どちらも10月にミライON図書館で行われた、長崎県教育センター主催の研修を受けた方は対象外となりますので、ご注意ください。

中堅研申込	新採研申込
URL https://forms.office.com/r/dmQinDGBsL	URL https://forms.office.com/r/ti0BBaWTM9
二次元コード 	二次元コード 

(文責：小林 真実)

保護者に見せる行事 その1

運動会と発表会は、行事の中でも特に準備期間が長く、大変ですね。私も幼稚園勤務時代には、頭を悩ませました。子どもの思いと保護者の思い、どちらも大切にしたいと。

さて、保護者は何を願っているのでしょうか。全体の見栄えでしょうか。きれいな衣装を着ていること、立派な演技ができること、みんながそろっていること・・・先生方が時間や手間をかけて準備をし、立派な成果を見せたくてたくさん練習し、そろってないところを一生懸命指導し、去年と比べて見劣りしないように頑張りすぎて、もしかしたら先生も子どもも疲れてはいませんか？

保護者は、我が子を見ています。例え、他の子どもと一緒にできていなくても、恥ずかしがって普段どおりできなくても、それでもかわいいものです。去年より成長した我が子の姿に感動するのです。楽しそうに、生き生きとできていればさらに嬉しく思います。真剣に頑張る姿にも感動します。

保護者が望まないことは何でしょう。それは練習がきつくて行きたくないと言い出すこと。それから、本番に他の子どもと比べて我が子の出番が少ないこと、よく見えないこと。出番や見え方には配慮が必要です。2列に並んで歌う場面では、段差を付けるか途中で前後を入れ替えるなど。

行事について、今一度「こうあるべき」や「保護者が望んでいると園側が思っていること」を立ち止まって「本当にそうだろうか」と考えてみてもいいのかもしれません。

今年、運動会からスポーツフェスティバルに名前を変えた園がありました。これまでの当たり前を見直し、「子どもが楽しい！」を行事名に込められたのだらうと嬉しく思いました。

園はその行事で「何を大切にしたいのか」、「子どものどんな育ちを期待するのか」を職員間で共通理解し、そして、それを保護者にも発信することが大事ですね。

(センター長 室野)